

事業完了報告書（実行団体）

| | |
|----------|---|
| 事業名: | 砂栽培で孤立者が働き集える場所の創造事業 |
| 資金分配団体名: | プラスソーシャルインベストメント株式会社 |
| 実行団体名: | 株式会社BASYO |
| 実施時期: | 2021年6月～2022年3月 |
| 事業対象地域: | 滋賀県 |
| 事業対象者: | ・就労移行したもと引きこもりや障がい者など福祉サービスを利用していない本人 ・年齢、経済条件、障がい福祉制度などに関係なく、引きこもりや障がいを持つ本人 |

Version 3.2

日付: 2022/3/31

I. 事業概要

| | |
|--------|--|
| 事業実施概要 | <p>コロナウイルス感染症の影響により、もと引きこもりで就労移行した方等が、就業した企業の雇用調整により休業・失業・定年を余儀なくされている。彼らは依存に陥りやすい性質があるため、雇用調整に陥っても、定年になっても、生活のリズムを保つために継続して働け集える場所が必要である。このため、地域の未利用資源である遊休農地や施設を活用して、高齢者、障がい者、環境にやさしいエコ・エコ農業である砂栽培を導入して働け集える場所をつくる。また、コロナ禍の外出自粛が続く中、親の健康に深刻な影響が出て、家族の分離が急務になっている8050問題に対応するため50歳代のひきこもりの子どもの働く場としても利用する。</p> |
|--------|--|

II. 課題・事業設計の振り返り

| | |
|-------------------|--|
| 課題設定、事業設計に関する振り返り | <p>ニーズについては、対象者とつながる「働き・暮らし応援センターTekito-」からの情報より、想定のものとなっている。目標どおり「ノウフク連携の砂栽培事業」がハード・ソフトともに整えることができた。特に本事業は社会的投資で資金調達することを目標にしており、事業前は自社株への出資で調達を想定していた。しかし、農業適格法人であり「農業関係者が総議決権の過半を占めること」の制約から、農業関係以外からの自社株への出資が困難であることが分かった。このため、公益財団法人東近江三方よし基金（東近江市）と湖東信用金庫（同市）が連携した公益性の高い事業を応援する初の制度融資「ビーナス」、地元金融会社からの融資、社債へと手法を変更して資金調達を行った。</p> |
|-------------------|--|

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

| ①受益者 | ②課題 | ③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット） | ④指標 | ⑤目標値・目標状態 | ⑥結果 | ⑦考察 |
|-------|-------|---------------------------------|------------------|----------------------|------------------------|---|
| 生活困窮者 | 引きこもり | 「ノウフク連携の砂栽培事業」がハード・ソフトともに整っている。 | ①ハード整備 ②ソフト整備 | 地域でのノウフクの連携体制が整っている。 | ①砂栽培施設設備 ②播種、事業計画策定 | ハード整備（砂栽培施設）は、冬期の降雪などで完成は若干遅れたが、事業期間中に整備が完了。 ソフト整備は、スタッフの農業技術の取得、事業計画の策定ができ、播種・定植作業が開始できた。 以上より「ノウフク連携の砂栽培事業」がハード・ソフトともに整ったと考察する。 |

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

| | |
|----------------|--|
| 事業実施以降に目標とする状況 | <p>年齢、経済条件、障がい福祉制度等に関係なく、引きこもりや障がいを持つ方が働き集える「ノウフク連携の砂栽培事業」が本格的に展開されている。企業や大学と連携してICTなど最新技術やノウハウが導入され、福祉制度を利用しないノウフク連携のしくみが構築できている。またこの農業事業を通して彼らの応援団が増えて、地域力が大きくなっている。これらを通して人口急減・超高齢化する地域社会を変革する場所となっている。</p> |
| 考察等 | <p>今後は本格稼働に向け、一・二作は試験栽培と位置づけ、対象者の作業適応を勘案しながら作業手順を定着化させる。また、計画した販路先を招いて現地見学、試食を通して販路先を確定させていく。また、民学連携で従来の勘と経験に基づく施設園芸から、ICTの導入による環境制御型の施設園芸への転換、及び高付加価値の野菜販売を行っていくものとする。</p> |

V. 活動

| 活動 | 進捗 | 概要 |
|-----------------------|--------|--|
| 1. 農業経営計画書（事業計画書）策定 | 計画通り | 農地取得適格法人の認定や、農地取得申請に必要な事業計画書を策定した。内容は、作物名、栽培方法、生産規模、生産量、販売方法、労働力、機械・施設整備、収入、経費、労働時間分配などとした。：2021年6月～2021年8月 |
| 2. 農地取得適格法人の認定、農地の確保 | 計画通り | ①農業委員会への相談・支援（農地取得適格法人、農地取得の認定申請） ・申請書・添付書類等作成：申請2021年8月 ・申請、審議、許可書交付（申請から交付まで1カ月程度）：交付2021年9月 ②所有者との交渉、売買契約、所有権移転：取得2021年11月 |
| 3. 高床式砂栽培施設4棟、管理施設の整備 | ほぼ計画通り | 遊休農地に高床式砂栽培施設、管理施設を整備した。高床式砂栽培整備の内容は、ビニールハウス、高床ベット、周辺装置（灌漑、電気など）、整地及び排水工事、地下水利用ベット冷暖房システムである。：2021年12月～2022年3月 |
| 4. 砂栽培の農業技術の取得 | 計画通り | ①実地研修： 1)京都府久御山町で高床式砂栽培を展開する株式会社エッチワンの農場で実地研修を行い砂栽培の基礎技術を取得した。：2021年7月22、23、29日、8月16日 4名受講 2)整備した砂栽培施設で、静岡県裾野市で砂栽培を行う農家を招聘して、連携団体である東近江圏働き・暮らし応援センターTekito-、支援センター太陽、Team konQ（困救）のメンバーを対象に研修を行い砂栽培の基礎概要を取得した。：2022年3月18日 10名受講 ②座学（栽培士3級）：一般社団法人日本砂栽培協会が開催する砂栽培の特長や栽培方法の座学を受講して基礎知識を取得した。：2021年12月10日 5名受講 |
| 5. 運営計画 | ほぼ計画通り | 本格事業開始に向けて、1)組織づくりと人的管理計画、2)作業管理、3)安全衛生・品質管理、4)情報管理（環境・作業・生産）、5)販路などの運営計画を策定した。 |
| 6. 生産の開始 | ほぼ計画通り | 本格事業開始に向けて播種が開始できた。：2022年3月 |
| 7. 調査・研究 | ほぼ計画通り | 龍谷大学の紹介でNTT西日本（ICT技術・通信インフラ協力）との研究会を実施。2021年8月26日、2022年2月22日研究会 |

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

| | |
|---------------------|--|
| 想定外のアウトカム、活動、波及効果など | <p>●人材育成の効果</p> <p>制度化が進み一定の施策や環境が整っている福祉分野において、全く新しく何かが始まる事を目の当たりにする経験は皆無に等しい。</p> <p>今回の砂栽培のスタートは、資金の背景（地域の財産の活用という責任）から「対象者がまだ制度にも施策にも載らない人たち（定年退職後、長期間の在宅生活）であることの学び」と、「自分たちの現場からの発信において「見える化」していく」という希望の現実」を、機関を越えた若い関係者たちが現場へ足を運び共感し合っている。</p> |
|---------------------|--|

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

| | |
|-----------|---|
| 課題を取り巻く変化 | <p>障害のある人の就職活動の相談から職場に定着できるようになるまでの幅広い相談支援を行う「障害者就業・生活支援センター」が、2002年の「障害者の雇用の促進等に関する法律（障害者雇用促進法）」の改正によって創設されてから約20年が経過する中、企業で雇用されていた障害を持つ方の退職者が、新型コロナの影響の長期化で増加傾向である。また、コロナ禍の外出自粛が続く中、親の健康に深刻な影響が出て、家族の分離が急務になっている8050問題の対象者も増加傾向である。このように一般就労へ移行できない比較的高齢な対象者向けの本事業のような中間的な働く場がますます必要となってきた。このために、販路を確保して、施設の増設も検討していくものとする。</p> |
|-----------|---|

VIII. 他団体との連携

| 連携先 | 実施内容・結果 |
|-------------------------------------|--|
| 東近江圏働き・暮らし応援センターTekito- 支援センター太陽 | 対象者の「働く」ことと「暮らす」ことを一体的にサポートする公的機関。 |
| Team konQ（困救） | 精神疾患を持つ対象者の相談支援を行う公的機関。 |
| Team Norishiro | 対象者を含む砂栽培事業の直接的な連携（農作業の委託）先。地域で抱えきれなくなった草刈や農業作業などで、対象者の中間就労の場を提供する民間事業者。 |
| 龍谷大学 | 近隣で薪、着火材の生産販売で対象者の中間就労の場を提供する民間事業者。 |
| | 民学連携の窓口。連携可能な企業の紹介・コーディネート（NTT西日本など） |

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

| | | 計画額 | 実績額 | 執行率 |
|------|-------|---|------------|--------|
| 事業費 | 直接事業費 | 52,197,572 | 52,207,612 | 100.0% |
| | 管理的経費 | 13,750 | 13,750 | 100.0% |
| 合計 | | 52,211,322 | 52,221,362 | 100.0% |
| 補足説明 | | 自己資金12,226,362円（内 ビーナス500万円、地銀融資200万円、社債500万円、現金226,362円） | | |

X. 広報実績

| 広報内容 | 内容 |
|-------------------------------|--|
| 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等） | 該当なし 対象者のことを考慮して広くメディアによる広報は行わない。 ノウフク関係者などの視察対応は今後実施。 |
| 2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの | 該当なし 今後は自己資金で販売促進用のパンフを作成予定。 |
| 3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例） | 該当なし 今後、砂栽培施設にシンボルマークを設置予定。 |
| 4.報告書等 | 該当なし |

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

| ①規程類※の整備実績 | 状況 | 内容 |
|---|--|-------------------|
| 1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。 | 完了 | |
| 2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。 | | |
| 3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。 | 未公開 | 今後作成するwebサイトで公開予定 |
| 4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。 | 変更はなかった | |
| ②ガバナンス・コンプライアンス体制 | 状況 | 内容 |
| 1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。 | はい | |
| 2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。 | はい | |
| 3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。 | はい | |
| 4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。 | はい | |
| 5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。 | はい | |
| 6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可) | <input type="checkbox"/> 外部監査 | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 | |
| | <input type="checkbox"/> 実施予定はない | |
| 7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。 | いいえ | |
| 8.内部通報制度は整備されていますか。 | はい | |